

授業科目名	リスクマネジメント論	担当教員	富樫 佳織
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年 第3クォーター		
講義内容	現代は、AI の生活への浸透や、パンデミック、災害といった現象が社会と人々の日常を大きく変化させている。このような時代にマネジメントを担う上で重要なのは「変動性」や「不確実性」といった見通しのつかなさから生まれるリスクを感知して、対応ができることだとされる。この授業では、プロジェクトレベルと、企業レベルでのリスクに注目をして、基礎的な概念を学び、リスクをチャンスに変えるにはどのような対応があるのかを考えていく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクを感知・検討する方法を理解して言葉で表現できるようになる。 ・リスクをはらんだプロジェクトをゴールに導いていくための考え方、手法を学び実践できる能力を習得する。 ・組織や団体レベルでのリスクを理解して、その対策について説明できるようになる。 		
授業計画	<p>この授業ではリスクについての概念や、過去のケースを学びながら、どうしたらリスクに対応できるのかを受講生自らが考え、議論をする主体的・能動的な授業を行う。授業ではグループでの議論や発表を行い、各回で学ぶ内容を発展させて意見を出し、まとめる姿勢を求める。</p> <p>第1回 授業ガイダンス/リスクとは何か 第2回 プロジェクトを動かす上でのリスク 第3回 多様なリスクとその特定 第4回 リスクの定性的評価・分析 第5回 リスクの定量的評価・分析 第6回 リスク対応計画/リスクコントロール 第7回 組織・団体のリスク/企業のケーススタディ 第8回 情報漏洩リスク 第9回 顧客対応リスク 第11回 災害によるリスク 第12回 リスクに対応するための組織</p>		

事前・事後 学習	<p>【事前学習】配布される授業資料に目を通して、疑問点や質問事項を確認しておく。</p> <p>【事後学習】授業中に学んだことをノートに必ずまとめる。各回の授業後に、学んだこと、受講生が考えたことをリフレクションペーパー（振り返りレポート）としてまとめて提出する。</p>
テキスト	特に指定なし。教員作成の授業資料を配布します。
参考文献	<p>トム・デマルコ，ティモシー・リスター（著），伊豆原弓（訳）（2003）『熊とワルツを リスクを愉しむプロジェクト管理』日経 BP，ISBN10：4822281868</p> <p>仁木一彦（著）（2012）『【図解】ひとめでわかるリスクマネジメント（第2版）』東洋経済新報社，ISBN10：4492093001</p>
成績評価 の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後のリフレクションペーパー（振り返りレポート）（50%） ・期末レポート（50%） <p>上記から読み取れる授業の理解度を総合して成績評価を行う。</p>
履修上の注意 履修要件	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に出欠確認をします。 ・授業の遅刻や欠席に関わる連絡は、クラスルームでの個人連絡で事前に連絡をお願いします。リフレクションペーパー（振り返りレポート）に記述された連絡事項は無効とします。 ・リフレクションペーパー（振り返りレポート）では、授業で学んだ内容、グループディスカッションで学んだ内容について振り返りをし、記述してください。 ・リフレクションペーパー（振り返りレポート）での個人的な質問やご要望は見逃す可能性がありますので、授業後およびオフィスアワーで受け付けます。
実践的教育	経営分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	<ul style="list-style-type: none"> ・定員を超過した場合は、抽選により選考します。 ・毎回の授業で行うグループディスカッションは、グループごとの発表を予定しますので、議論をしながらメンバーの意見を各自で必ず PC やノートを使ってまとめるようにしてください。